

Avid Aviation Enthusiast その熱烈なるヒコークィ愛

A Story of Sam Chui

みずから“Avid Aviation Enthusiast (熱烈な航空マニア)”と称して活動するフォトグラファー、サム・チュイ。専門の航空写真家ではないながら、その情熱はときにプロフェッショナルをも凌駕し、ヒコークィ愛に裏打ちされた魅力的な旅客機写真と、興味があればどこにでも出掛けていくフットワークの軽さで、世界中の旅客機ファンから支持を得ている。

Photography by Sam Chui



サム・チュイがこれまでに訪れた国は50か国以上にのぼる。世界のエアライン約140社1000近くのパライトを経験して、総飛行時間は約4400時間、総飛行マイルは驚愕の200万マイルに達する。しかもその中には南洋の小島に渡るローカルエアラインから、BAのコンコルド、SQのA380世界初運航便の「スイート」搭乗まで多彩に含まれるから恐れ入る。そして、それらのフライトログを

機種ごとの搭乗回数や飛行ルート、年数ごとに分類して自身のサイト上で公開しているという、スーパーマニアなのである。

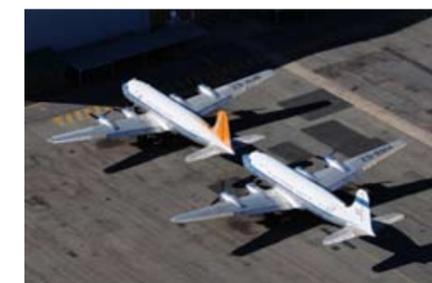
世界有数ともいえるような「乗りマニア」である一方、サム・チュイを語る上で忘れてはならないのは、彼の写真の独自性と美しさにある。訪れた先々での目的は、やはりおもに飛行機撮影のよう

で、珍しい機体や普通でない構図を求めるあまり、地上での撮影だけでは飽き足らず、空撮にも多く挑んでおり、最近では中東のアブダビ在住という地の利も生かして、スーダンのハルツームや南アフリカ共和国のヨハネスブルグなどにも赴き、ヘリコプターからのダイナミックな撮影をこなしている。

以下ここで紹介するのは、近年の中で彼が「印象的だった」とする写真の数々である。(編集部)



ハンガーエリアでは南アフリカのローカルエアラインの珍しい姿もみることが出来る。



ZS-AUBとZS-BMH、いずれも南アフリカ航空のDC-4。2機のクラシック機がビジーな国際空港のゲートウェイに佇み並ぶ姿は何ともすてきだ。



南アフリカのLCC、Kulula (クルラ)のボーイング737-800。「This Way Up」とある。もちろんこちら側が上だ!

ヨハネスブルグ国際空港 Johannesburg International Airport, South Africa March 2012

ヨハネスブルグ空港にはアフリカ各国のフラッグキャリアやレアなLCCが集まる一方、SAA (南アフリカ航空)博物館には747SPの実機が展示されており、747を愛する一人として向かわずにはいられなかった。

ヨハネスブルグ国際空港に隣接する、SAA博物館上空からのショット。SAAの747SPのほか、DC-4他名機が並ぶ。

イラン航空 B747-200 IR659便 テヘラン→ドバイ

Iran Air B747-200 IR659 Tehran→Dubai
April 2012



イラン航空の747クラシック(-100/-200)のフライトに乗ることは、これらが決まった路線にはアサインされていないため難しい。事前の予想と予約ができないのだ。以前にIRの747SPには乗っていたが、自分の中で747クラシックへの思いは日に日に高まっていた。

最近で最も印象的だったフライトは、イラン航空の747クラシック。テヘランからドバイまで747-100でのフライトを期待していたが、機材変更で急遽747-200になってしまった。しかし、これでも十分にレアな機体。



IR659便のビジネスクラスの乗客はなんと自分だけで、キャビンを独り占めできた。非常によくメンテナンスされている。1時間45分のフライトにもかかわらずアメニティも配られた。



機内食のメインコースにはステーキを選択。肉はやわらかく、ほどよく火が通っていて、朝食のステーキとしては、これまでの人生でもベストだった。



イラン航空の747SP、A310-300、そして同じくイランのマハンエアA310が連なる朝のテヘラン・エマーム・ホメイニー空港。



サム・チュイ
Sam Chui
Photographer
<http://www.samchuiphotos.com/>

北京生まれ、香港・シドニーで育ち、現在はUAEのアバダに在住。10代だった1995年から香港・啓徳空港でのスポッティングを始め、1999年よりシドニーで旅客機撮影を開始(コタクローム、フジフィルムVelvia)。2002年にデジタルへ移行。初めてのフライトはユナイテッド航空747での香港=東京線。以来、コンコルドやシンガポール航空A380初便スイートなど注目の機材や名機を求めて、世界各国のエアラインに搭乗し、世界各国の航空誌・新聞等で幅広く活躍する。2008年に初の写真集「AIR」を刊行。今夏には、最新作「AIR II」を刊行予定。

使用機材: Nikon D300, Nikon 80-400mm VR f4-5.6, 70-200mm f2.8, 18-200mm VR, 10.5mm f2.8 Fisheye, Tokina 11-16mm f2.8

テヘラン空港、搭乗ゲートの電光表示は気に入った。赤と緑で各ゲートがオープンしているかどうかを知らせる。



滑走路脇に並ぶ機体の数々。よく見ると国連機も多く駐機しているのがわかる。



2機の707は非常に良いコンディションに保たれていた。エキゾチックな機体を次々とモノにできるハルツームでの撮影はとてもエキサイティングだ。



サウジアラビア航空SV451便として、ジェッダからハルツームに到着。通常のサウジの777ではなく、タイの登録記号になった白塗りの767-300ERで現れたので驚いた。(現在はオリエント・タイで運航中で成田にも飛来している)

ハルツーム国際空港 Khartoum International Airport, Sudan December 2011

元々ハルツーム空港でのスポッティングには、それほど興味がなかったが、スポッター仲間の情報からの情報で、グーグルマップを開くと、このシングルランウェイの空港が市街地の中央にあることが分かり、一気に興味が沸いた。現在、新空港が建設中で今のうちという訳で、急遽赴くこととなった。

空撮 Air to Air February 2007, Sydney

空撮の魅力は、通常見られないトップサイドからの飛行機的美しさにある。地上からの撮影が出来ないのなら、空撮という選択肢があるのだ!

2007年、B206ヘリコプターからセスナCJ3ビジネスジェットをシドニー北部で追った。ビジネスジェットは何度か旋回し、ヘリコプターの非常に近くまで接近した。ヘリのドアはすべて取り外されており、ジェットプラストを直に感じることができた。

